MATSUDA SANGYO CO.,LTD.

松田産業株式会社

2023 年 3 月期　決算説明会

2023 年 5 月 23 日

イベント概要

[企業名]	松田産業株式会社
[企業 ID]	7456
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2023 年 3 月期　決算説明会
[決算期]	2023 年度　通期
[日程]	2023 年 5 月 23 日
[ページ数]	29
[時間]	14:00 – 15:00 （合計：60 分、登壇：37 分、質疑応答：23 分）
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	2 名 代表取締役社長　松田　芳明（以下、松田） 執行役員 CSR・IR 部長　田中　善則（以下、田中）

登壇

司会：お時間になりましたので、これより松田産業株式会社、2023 年 3 月期決算説明会を開催いたします。本日はご多忙の中、決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

開催に当たりまして、各種お願い、ご連絡事項を申し上げます。

本説明会は、決算報告の後、質疑応答のお時間を設けております。質疑応答は、コントロールパネルの Q&A 機能より、テキスト形式にてお受け付けいたします。14 時 30 分ごろから質疑応答に移らせていただき、頂戴したご質問を読み上げ、ご回答させていただきます。お時間の関係上、全てのご質問にお答えできない場合もございます。あらかじめご了承ください。

なお、チャット機能は使えませんので、何かお困りごとがございましたら、Q&A 機能にてお知らせください。

また、説明会終了後、3 分程度のアンケートをお願いしております。ご協力いただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これより 2023 年 3 月期決算について、代表取締役社長、松田芳明、および執行役員 CSR・IR 部長、田中善則より、ご報告させていただきます。

サポート
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com
SCRIPTS Asia's Meetings, Globally

松田：皆様、本日は当社の決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。松田産業株式会社、代表取締役社長、松田芳明でございます。

それでは、これより 2023 年 3 月期決算についてのご報告をさせていただきます。

本日はご覧の流れでご説明いたします。初めに、決算の概要と、昨年度に公表いたしました中期経営計画の進捗状況について、私からご説明いたします。その後、セグメント別の業績と 2024 年 3 月期見通しについて、IR 担当の田中よりご説明いたします。

それでは、2023 年 3 月期の決算概要についてご説明いたします。本スライドは 2023 年 3 月期決算説明のポイントでございます。

昨年度は 4 期連続で増収増益を実現し、連結売上高、営業利益ともに過去最高の水準となりました。また、当社の経営目標として掲げております ROE・ROA ともに目標の水準を達成することができました。

サポート
日本　050-5212-7790　米国　1-800-674-8375
フリーダイアル　0120-966-744　メールアドレス　support@scriptsasia.com

連結業績

4期連続で増収増益を実現し、過去最高の業績を更新。売上高は3,000億円を突破

（億円）

	22年3月期	23年3月期	増減	
売上高	2,722	**3,510**	+787	+28.9%
営業利益	126	**138**	+11	+9.0%
営業利益率	4.7%	**3.9%**	▲0.7pt	-
経常利益	137	**138**	+1	+0.8%
当期純利益	95	**96**	+1	+1.4%
1株当たり当期純利益（円）	366.4	**371.7**	+5	+1.4%
ROE	13.7%	**12.2%**	▲1.5pt	-

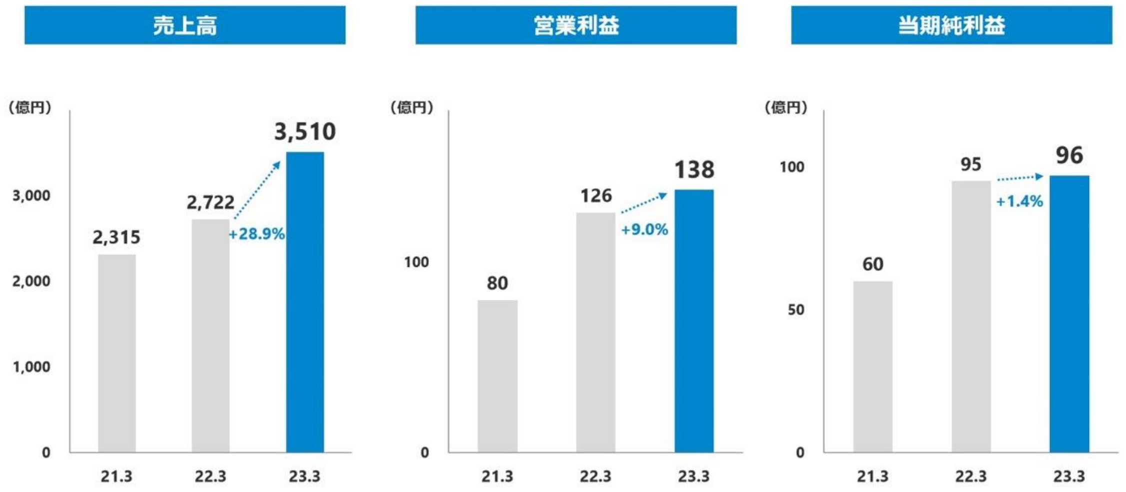
Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.

初めに、連結業績の概要についてご説明いたします。

2023 年 3 月期の売上高は、貴金属関連事業、食品関連事業ともに、取扱数量が好調に推移し、価格上昇などもありまして、前期比 28.9%増加の 3,510 億円となり、営業利益は前期比 9%増加の 138 億円となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比 1.4%増加の 96 億円となりました。

上段に記載のとおり、当期は 4 期連続で増収増益を実現し、過去最高の業績を更新しまして、売上高としては初めて 3,000 億円を突破することができました。

連結業績の推移



Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD. 松田産業株式会社 MATSUDA SANGYO CO., LTD. 7

売上高、営業利益および当期純利益の 3 カ年の推移はご覧のとおりでございます。

連結貸借対照表

【資産の部】 (億円)

	22年3月末	23年3月末	増減	増減要因
流動資産	860	**893**	+32	(+) 取扱数量増加に伴う棚卸資産の増加
固定資産	297	**398**	+101	(+) 入間地区土地・建物、北九州市土地、ERP刷新
資産合計	1,157	**1,292**	+134	

【負債の部】

	22年3月末	23年3月末	増減	増減要因
流動負債	335	**278**	▲56	(−) 短期借入金の返済
固定負債	77	**166**	+88	(+) 設備投資を目的とする長期借入金の増加
うち有利子負債	163	**192**	+28	
負債合計	413	**445**	+31	

【純資産の部】

	22年3月末	23年3月末	増減	増減要因
純資産合計	744	**846**	+102	(+) 利益剰余金の増加
負債純資産合計	1,157	**1,292**	+134	

自己資本比率	64.2%	**65.4%**

Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD. 松田産業株式会社 MATSUDA SANGYO CO., LTD. 8

続きまして、連結貸借対照表についてご説明いたします。

まず、資産につきましては、取扱数量増加に伴う棚卸資産の増加などにより流動資産が 32 億円増加し、固定資産につきましても、生産拠点の土地・建物の取得や ERP 刷新などにより 101 億円増加いたしましたので、総資産は前期に比べ 134 億円増加し、1,292 億円となりました。

負債につきましては、短期借入金の返済により流動負債が 56 億円減少した一方で、設備投資を目的とする長期借入金の増加により固定負債が 88 億円増加いたしましたので、合計では前期末に比べ 31 億円増加し、445 億円となりました。

純資産につきましては、利益剰余金の増加などに伴い、前期末に比べ 102 億円増加し、846 億円となっております。なお、2022 年 8 月 22 日付で自己株式の償却を行った結果、利益剰余金と自己株式がそれぞれ 24 億円減少しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

（億円）

	22年3月期	23年3月期	増減	増減要因
営業キャッシュ・フロー	70	**106**	+36	（+）税金等調整前当期純利益、減価償却費の増加 （−）棚卸資産増加、法人税納付額増加
投資キャッシュ・フロー	▲25	**▲121**	▲96	（−）固定資産の取得
フリー・キャッシュ・フロー	45	**▲15**	▲60	
財務キャッシュ・フロー	▲22	**13**	+36	（+）設備投資を目的とする長期借入金の増加
現金及び現金同等物の増減	25	**3**	▲21	
現金及び現金同等物の期末残高	113	**117**	+3	

Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.
松田産業株式会社 MATSUDA SANGYO CO., LTD.
9

次に、連結キャッシュ・フロー計算書につきましては、業績および貸借対照表の状況から、現在ご覧いただいているとおりの結果となっております。

2022 年 3 月期は営業キャッシュ・フローが大きく改善し、2009 年 3 月期に次ぐ規模の 106 億円を確保しました。これを原資として、生産拠点の土地・建物を取得するなど、将来に向けた積極的な投資を実行した 1 年となりました。

2023 年 3 月期の決算の概要は、以上のとおりでございます。

経営目標

23/3期も過去最高の業績を更新し、中期計画目標値を前倒しで達成

（億円）

	FY16-18 平均	FY19-21 平均	FY22 実績	FY23 予想	FY25 目標
売上高	1,871	2,382	**3,510**	3,300	3,000
営業利益	42	90	**138**	90	130
営業利益率	2.2%	3.7%	**3.9%**	2.9%	4.3%
ROE	5.6%	10.0%	**12.2%**	7.3%	9.0%
ROA（総資産経常利益率）	6.0%	9.4%	**11.3%**	-	10.0%

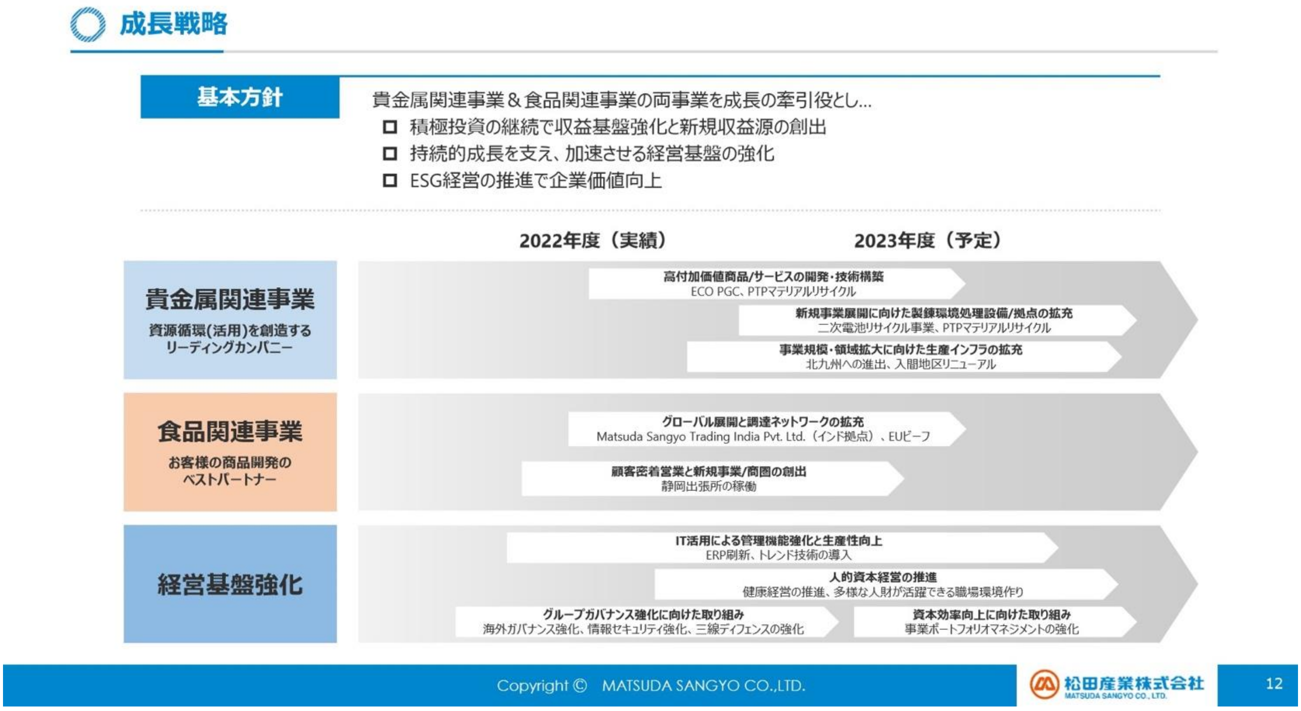
Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD. 松田産業株式会社 MATSUDA SANGYO CO.,LTD. 11

続きまして、昨年度に公表いたしました 2022 年度を開始年度とする 4 カ年の中期経営計画の進捗状況についてご説明いたします。

まず、2025 年度の経営目標に対する進捗状況をご説明いたします。

右手にございますのが、2025 年度における各指標の目標値となります。2022 年度では、先ほどの決算説明のとおり、取扱数量の増加などにより過去最高の業績を更新したことから、中期経営計画初年度にて営業利益率を除いた全ての目標値を達成することができました。

一方で、詳細は後ほどご説明いたしますが、5 月 12 日に公表いたしました 2023 年度の業績予想では、減収減益の見通しとなっております。類を見ない急激なインフレの加速をはじめとして、先行きが不透明な状況が続いている中で、貴金属関連事業における外部環境の悪化などから、2023 年度の業績予想としても、いったんは切り下がるものの、引き続き 2025 年度の経営目標に向けて、着実に成長戦略を推進してまいります。



本スライドは、中期経営計画に掲げる成長戦略に対する進捗状況と今後の予定になります。

成長戦略として、基本方針を三つ掲げております。

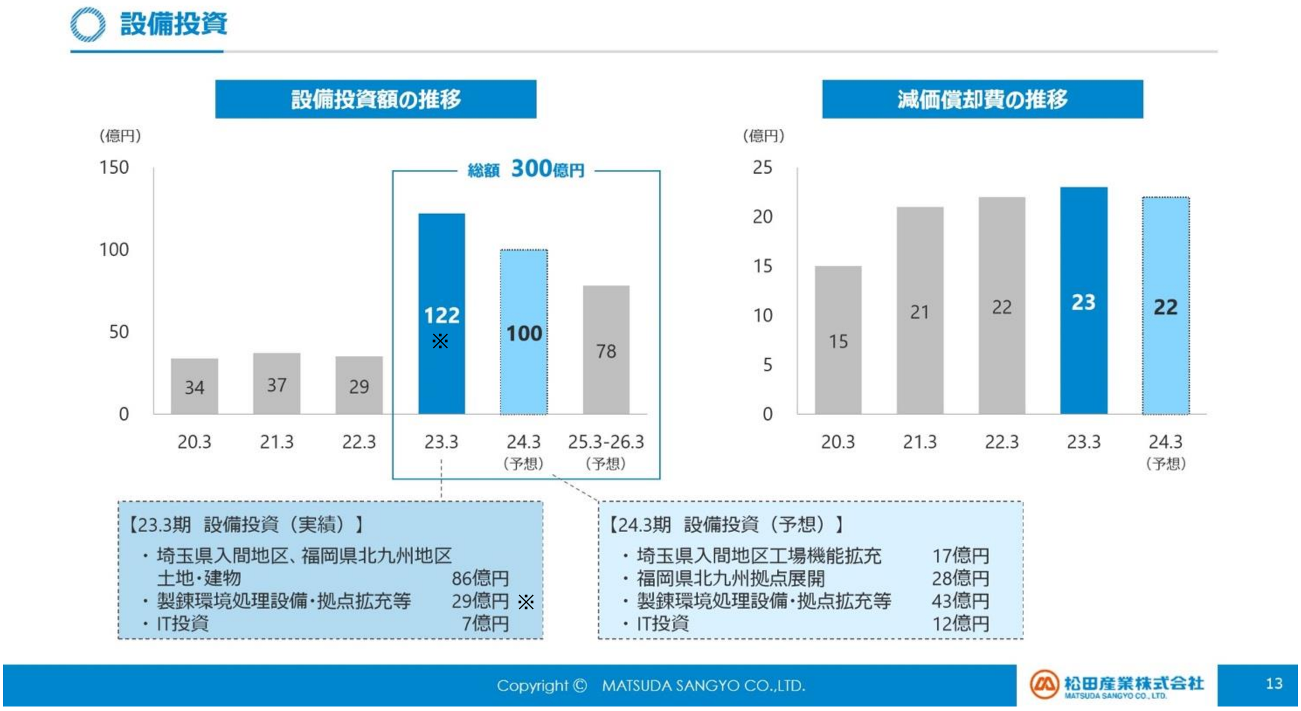
一つめは、収益基盤強化と新規収益源の創出。二つ目としては経営基盤の強化。さらに三つ目としまして、ESG 経営の推進と企業価値向上となります。

まず、貴金属関連事業では、資源循環を創造するリーディングカンパニーをビジョンとし、新規事業展開および事業規模拡大に向けた、高付加価値商品やサービスの開発および技術構築、生産インフラの拡充を進めております。

食品関連事業では、お客様の商品開発のベストパートナーをビジョンとし、グローバル展開と調達ネットワークの拡充、顧客密着営業と新規事業および商圏の創出を進めております。

また、持続的な成長を支え、企業価値を向上するための経営基盤強化として、IT 活用による管理機能強化と生産性向上、人的資本経営の推進、グループガバナンス強化に取り組んでおります。

さらに、2023 年度には、資本効率向上に向けた取組みを、全社を挙げて進めてまいります。



※訂正：23.3 設備投資額　誤 122 億円→正 113 億円　／　製錬環境処理設備･拠点拡充等　誤 29 億円→正 20 億円

次に、設備投資の状況についてご説明いたします。

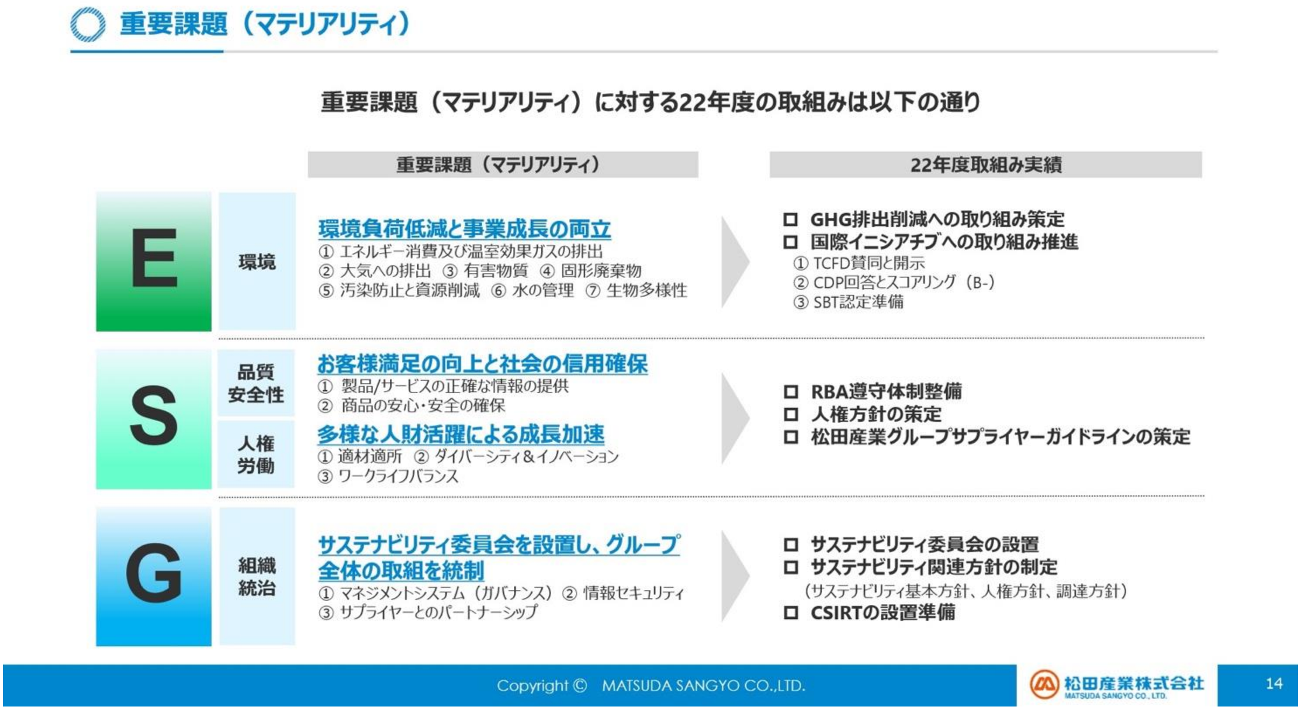
2023 年 3 月期の設備投資は、将来の事業拡大を見据えた生産インフラの整備拡充のため、埼玉県入間地区での土地・建物取得や北九州の土地取得の他、製錬環境処理設備などに 122 億円(※)の投資を行っております。

なお、2023 年 3 月期の減価償却費は 23 億円となりました。

2024 年 3 月期の設備投資は、2023 年 3 月期に引き続き、入間地区における工場機能の拡充や北九州拠点の展開、製錬環境処理設備などに、総額として約 100 億円の投資を予定しております。

なお、2024 年 3 月期の減価償却費は約 22 億円を見込んでおります。

中期経営計画では 4 カ年累計で総額 300 億円の投資を計画しておりますので、2025 年 3 月期以降の 2 カ年では、合わせて 78 億円の投資計画になります。



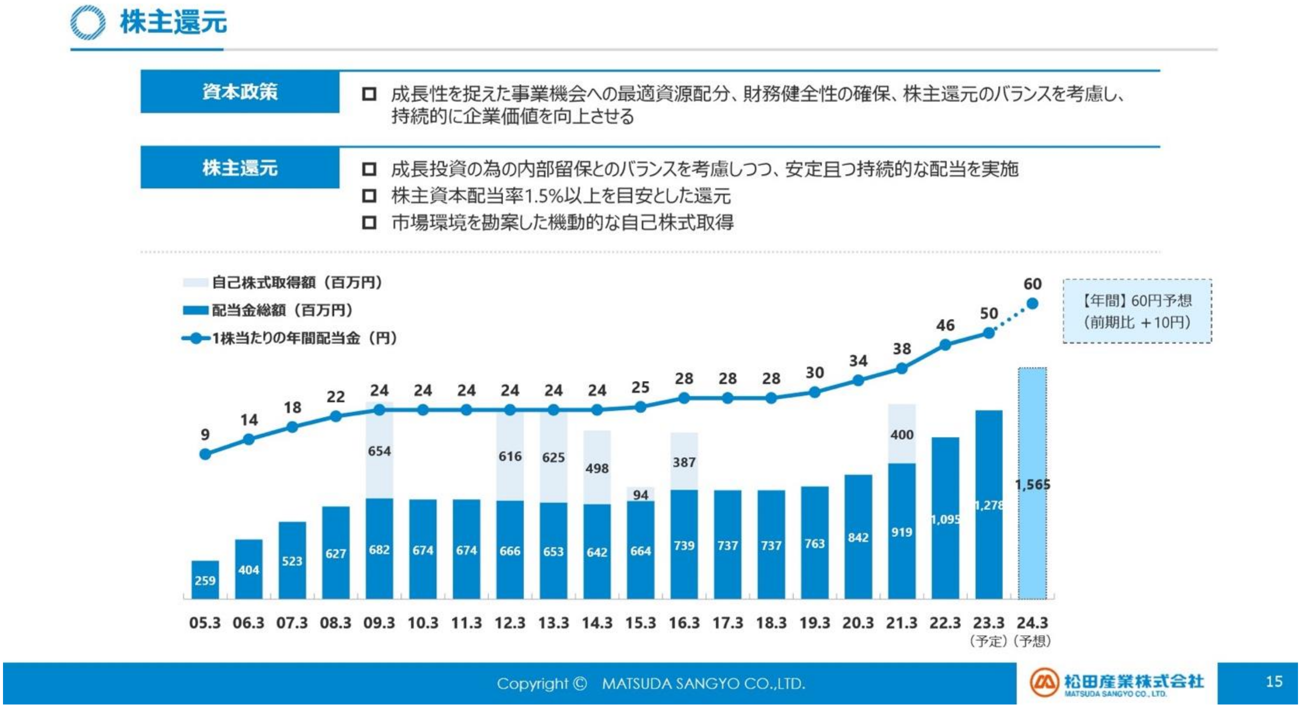
次に、企業価値向上に向けて当社グループが取り組む重要課題に対する進捗をご説明いたします。

まず、ESG の E、環境に対しましては、22 年度では GHG 排出削減への取組み計画の策定や、国際イニシアチブへの取組みを推進いたしました。

次に、ESG の S、品質・安全性と人権・労働に対しましては、CSR の国際基準である RBA 順守体制の整備と、当社における人権方針の策定、そして松田産業グループでのサプライヤーガイドラインの策定を行っております。

そして、ESG の G、ガバナンスに対しましては、サステナビリティ委員会の設置とサステナビリティに関する方針の制定、また情報セキュリティに対する各種対策を行いました。

今後も引き続き、企業価値向上に向けて、これらの重要課題に対し積極的に取り組んでまいります。



最後に、株主還元につきましてご説明いたします。

当社は、上段にございますとおり、成長性を捉えた事業機会への最適資源配分、財務健全性の確保、株主還元のバランスを考慮し、持続的に企業価値を向上させることを資本政策の基本方針としております。当方針のもとに、株主還元につきましては、安定かつ持続的な配当の実施と市場環境を勘案した機動的な自己株式取得を通して、株主様の期待に応えてまいります。

2023 年 3 月期の配当金につきましては、中間配当 25 円、期末配当 25 円の、年間合計 50 円を予定しております。

なお、2024 年 3 月期の配当金は前期比で 10 円の増配を予想し、中間配当 30 円、期末配当 30 円の、年間合計 60 円を予想しております。次期の予想も含めますと、6 期連続の増配になります。

当社は、持続的な企業価値向上のための重要課題として、成長戦略の実施による中長期的な資本収益性の向上と、サステナビリティ課題への取組みを積極的に推進しつつ、株主還元の充実に向けて具体的な検討を進め、ご期待に応えてまいりたいと存じます。

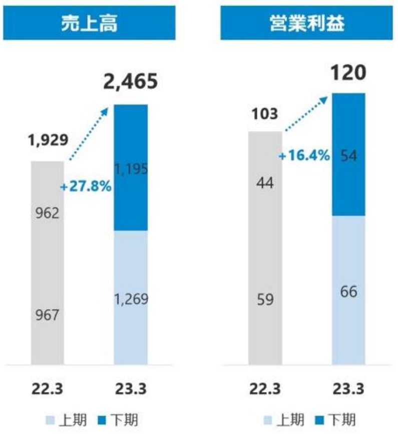
皆様からのより一層のご支援をお願い申し上げ、私からのご説明は、以上とさせさせていただきます。引き続き、IR 担当より、セグメント別の業績と 2024 年 3 月期の見通しにつきまして、ご説明いたします。

セグメント別の業績（貴金属関連事業）

貴金属リサイクルの取扱量及び産業廃棄物の処理受託の増加ならびに、製商品販売の拡大によって、増収増益を達成（過去最高の業績更新）

（億円）

	22年3月期	23年3月期	増減	
売上高	1,929	2,465	+536	+27.8%
営業利益	103	120	+16	+16.4%
営業利益率	5.4%	4.9%	▲0.5pt	-



Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.
松田産業株式会社 MATSUDA SANGYO CO., LTD.
17

田中：IR を担当しております田中でございます。ここからは、2023 年 3 月期のセグメント別の業績と、2024 年 3 月期の業績見通しにつきまして、私からそれぞれご説明いたします。

2023 年 3 月期のセグメント業績につきまして、初めに貴金属関連事業になります。

ご覧いただいてますとおり、売上高につきましては前期比 27.8%増加の 2,465 億円、営業利益は前期比 16.4%増加の 120 億円となりました。

当事業の業績に影響する外部環境は、貴金属リサイクル、産業廃棄物処理、製商品販売の全てにおいて主力の顧客になります電子デバイス分野の生産動向、操業状況が、2023 年 3 月期の半ばほどまではおおむね順調な状況に見られましたが、下期に入りますとスマートフォンやパソコンなどの需要減退や在庫の過剰感から、生産調整、操業低下の状況に変化いたしました。

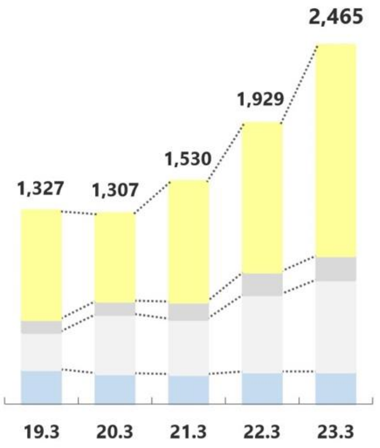
当事業では当社の資源循環機能をご評価いただいた結果、宝飾関連、触媒関連なども含めまして、国内外での取扱数量を確保し、また製商品販売も増加しましたことから、売上、営業利益とも過去最高の実績になりましたが、下期から数量面では勢いは徐々に鈍化する状況となり、売上、営業利益とも下期は少し減少傾向になっております。

価格面でございますが、ロジウムなど白金族系に相場の下落がございましたが、主要貴金属の金につきましては高値圏で推移いたしました。

また、コスト面になりますが、価格上昇の影響で電力費等の増加もやはり顕著になりまして、加えて積極的な賃上げの実施に伴う労務費、人件費の増加なども含めて、製造費、販管費、合わせて上昇しております。

品目別売上高の推移（貴金属関連事業）

金製品、銀製品及び白金族製品等の販売量増加、金価格上昇などにより、白金族相場下落の影響を抑えて、全体の売上高は前期比+536億円



（億円）

	23年3月期	増減		増減要因
金	1,439	+425	+42.0%	数量増加 +22.0%、価格上昇 +20.0%
銀	166	+9	+5.9%	数量増加 +1.4%、価格上昇 +4.5%
白金族	634	+101	+19.1%	数量増加 +20.0%、価格下落 ▲0.9%
その他	225	▲0	▲0.1%	産業廃棄物処理+19.0% 電子材料等商品など減少

Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD. 松田産業株式会社 MATSUDA SANGYO CO., LTD. 18

当貴金属関連事業の売上高につきまして、品目別で少し補足させていただきます。

当事業の売上の 58%を占めております金製品につきましては、前期に比べまして数量の増加の要因で 22%、価格上昇の要因で 20%を合わせまして 42%、売上が増加しております。数量の増加は電子デバイス分野の貢献もございますが、宝飾関連業界からの取扱数量増加の寄与度が大きくなっております。

銀製品は、前期に比べまして数量増加の要因で 1.4%、価格上昇の要因で 4.5%の、合わせまして 5.9%、売上が増加しております。

白金族製品の売上は、前期に比べ数量増加要因で 20%増加し、価格下落の要因で逆に 1%弱減少しております。したがって、合計では 19.1%の売上増加となっております。

白金族製品の数量増加は、主に宝飾関連、触媒関連が寄与したものでございます。

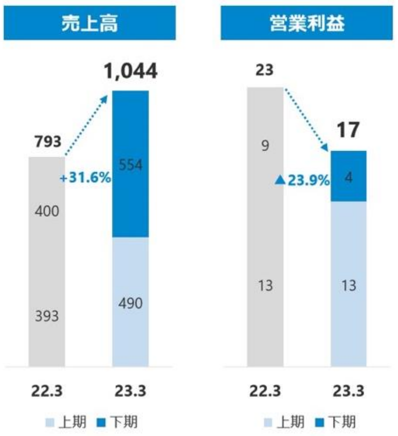
その他の売上はわずかに減少していますが、中に含まれます産業廃棄物処理受託は順調に推移いたしまして、売上も 19%ほど増加しております。減少の主な要因は、商社機能として取り扱っております電子材料等商品の減少によるものになります。

セグメント別の業績（食品関連事業）

水産品、畜産品、農産品の販売量は増加し、販売価格も上昇したことにより増収（初の売上高1,000億円超）
一方で、運送費及び保管料の増加や仕入価格上昇の影響により減益

（億円）

	22年3月期	23年3月期	増減	
売上高	793	**1,044**	+250	+31.6%
営業利益	23	**17**	▲5	▲23.9%
営業利益率	2.9%	**1.7%**	▲1.2pt	-



Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.
松田産業株式会社 MATSUDA SANGYO CO., LTD.

続きまして、食品関連事業の業績になります。

当事業の売上高は前期比 31.6%増加の 1,044 億円となりましたが、営業利益では前期比 23.9%減少の 17 億円となりました。

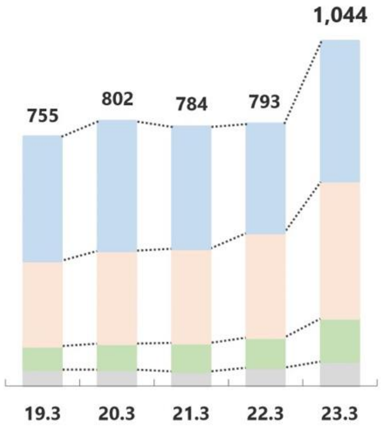
当事業におきます外部環境でございますが、新型コロナに伴う制限などが解除の方向に向かって、インバウンド需要も含め、業務用食品には需要回復の傾向が見られました。しかしながら、原原材料価格の上昇などを背景にした値上げが相次いだこともございまして、個人消費にはやや弱さがうかがえた状況でございます。

このような状況の中で、当事業につきましては、品質、価格、安定供給などの多様化しております顧客のニーズにも調達力を武器に柔軟に対処できたことで、水産品、畜産品、農産品の販売量が増加し、価格上昇も伴いまして、前期に比べ売上は増加となり、初の 1,000 億円台となりました。

一方で、運送費や保管料の価格上昇の影響を受けまして、販管費が増加して、また、仕入価格上昇の影響もございましたので、営業利益面では前期に比べ 5 億円減少する結果となりました。仕入価格の上昇や販管費の増加、こういったコストの上昇に対しましては価格転嫁などの対応をとっておりますが、断続的とも見られますコスト上昇への対応にやや遅れが生じまして、利益率の低下につながったという内容でございます。

品目別売上高の推移（食品関連事業）

各品目において、販売量は増加し、販売価格も総じて大幅に上昇したことにより、全ての品目で売上高は増加し、全体では前期比+250億円



（億円）

	23年3月期	増減		増減要因
水産品	422	+93	+28.4%	数量増加 +5.3%、価格上昇 +23.1%
畜産品	415	+97	+30.7%	数量増加 +5.6%、価格上昇 +25.1%
農産品	131	+40	+44.4%	数量増加 +21.8%、価格上昇 +22.6%
その他	74	+19	+35.0%	数量増加 +6.5%、価格上昇 +28.5%

Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.

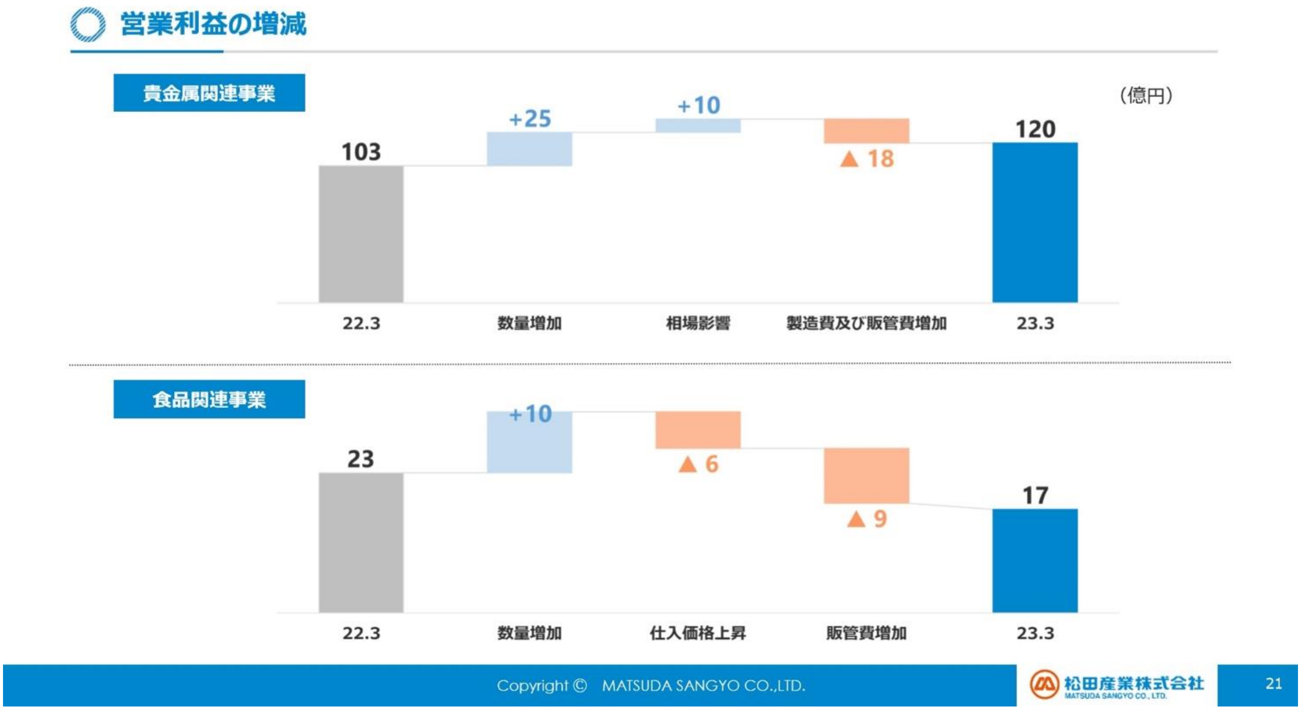
食品関連事業の売上高につきまして、品目別で補足させていただきます。

水産品は、前期に比べ数量増加で 5.3%、価格上昇で 23.1%、それぞれ増加しまして、合わせて 28.4%の増加となっております。数量の増加につきましては、主にエビや凍魚などの拡販が寄与したものでございます。

畜産品は、前期に比べ数量増加で 5.6%、価格の上昇で 25.1%、売上が増加し、合わせて 30.7%の増加になっています。数量の増加は、主に豚肉関連の拡販が要因でございます。

農産品につきましては、前期に比べ数量の増加で 21.8%、価格の上昇で 22.6%、それぞれ売上が増加した結果、合わせて 44.4%の大幅な増加になりました。数量の増加は冷凍野菜の寄与度が高いという内容でございますが、ポテト関連等の乾燥野菜も順調に拡販が進んでおります。

以上のとおり、各品目とも拡販が進み、数量面でも売上増加に貢献した内容でございますが、各品目、各商品、総じて価格が上昇する傾向でございましたので、やはり売上への価格上昇の影響が顕著な内容になっております。



続いて、営業利益の概要を補足させていただきます。

貴金属関連事業の営業利益は、前期比で 17 億円ほど増加いたしましたが、数量増加による貢献によっておよそ 25 億円、貴金属相場の影響としておよそ 10 億円が、営業利益の増加に寄与しております。

一方で、製造費や販管費の増加、約 18 億円、こちらが営業利益を引き下げる要因になっております。貴金属相場の影響はおおむね金価格上昇によるものでございます。白金族系の相場下落の影響もございましたが、これらを打ち消した状況でございます。

製造費および販管費の増加は、電力費や補助材料費、人件費、減価償却費などのほか、土地等の取得ございました。そういったものに伴って発生しております租税公課等の一過的な増加、こちらも含んでおります。なお、価格上昇が顕著な電力費につきましては、前期比で 90%近い、非常に高い増加率になっております。

食品関連事業の営業利益は、前期比で 5 億円ほど減少いたしましたが、数量の増加によっておよそ 10 億円、営業利益を押し上げております。その半面、仕入価格の上昇による影響がございまして、逆に 6 億円引き下げる結果となり、また、販管費の増加を約 9 億円、こちらを吸収できずに減益となったものでございます。

仕入価格上昇に伴うマイナス影響は、主に水産品、畜産品、こちらで発生したものでございます。また、販管費の増加は、運送費、保管料といった物流費で 5 億円近く増加し、人件費や旅費・交通費などの増加もそちらに加わったという内容でございます。

連結業績見通し

24/3期は、貴金属関連事業の外部環境悪化を背景に、減収減益を予想

（億円）

	23年3月期 実績	24年3月期 予想	増減	
売上高	3,510	3,300	▲210	▲6.0%
営業利益	138	90	▲48	▲34.9%
営業利益率	3.9%	2.9%	▲1pt	-
経常利益	138	93	▲45	▲32.8%
当期純利益	96	65	▲31	▲33.0%
1株当たり当期純利益（円）	371.7	249.1	▲122.5	▲33.0%
ROE	12.2%	7.3%	▲5pt	-

Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.

続きまして、2024 年 3 月期の連結業績見通しについてご説明いたします。

売上高は前期比 6%減少の 3,300 億円。営業利益は前期比 34.9%減少の 90 億円。当期純利益では前期比 33%減少の 65 億円を見通し、減収減益の予想になりました。

減収減益の予想に大きく影響しておりますのは貴金属関連事業になりますが、その背景でございます外部環境の悪化は一過的と見ておりまして、電子デバイス分野における中長期的な成長への期待には変化がございませんので、計画しております設備投資やサステナビリティへの取組み、また人的資本への投資拡大などにつきましては、引き続き積極的に実施してまいりたいと考えております。

セグメント別の業績見通し

貴金属関連事業は、電子デバイス分野の操業・生産低下の見通しから、取扱数量の減少による大幅減益を予想
食品関連事業は、上昇が続いた価格の下落見通しを含め、売上・営業利益とも凡そ横這いを予想

（億円）

		23年3月期 実績	24年3月期 予想	増減	
売上高	貴金属関連事業	2,465	**2,300**	▲165	▲6.7%
	食品関連事業	1,044	**1,000**	▲44	▲4.3%
	合計	3,510	**3,300**	▲210	▲6.0%
営業利益	貴金属関連事業	120	**71**	▲49	▲41.0%
	食品関連事業	17	**19**	+1	+7.1%
	合計	138	**90**	▲48	▲34.9%

Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.
松田産業株式会社 MATSUDA SANGYO CO., LTD. 23

セグメント別の業績見通しなります。

貴金属関連事業では、金属リサイクルの取扱量や製商品の販売数量に大きく影響いたします電子デバイス分野の生産動向悪化、ならびに回復時期の遅延見通しから、売上では 6.7%減少、営業利益では 41%の減少を予想しております。

売上については宝飾関連、触媒関連の増加などを期待できることから、6.7%の減少にとどまっておりますが、貴金属リサイクルでは少量多品種かつ処理難易度が高く、加えて製商品販売も伴いますので、相対的に付加価値が高くなる電子デバイス分野の環境悪化による影響はやはり大きなものがございますので、売上総利益の減少見通しから営業利益の大幅減少を予想したものでございます。

なお、参考資料に上期・下期別の業績見通しを付けておりますが、外部環境の回復時期の見立てから、下期より改善に向かうことを予想しております。完全な回復という意味では来年度になりそうではございますが、そこからは再び成長局面に戻ると現段階で見ております。

次に、食品関連事業になりますが、外部環境といたしましては、インバウンド需要も含めて、食品全体の需要は回復する想定を持っております。そういった中で、当然ながら販売数量の拡大を見通しております。

一方、販売価格、価格面につきましては、かなり急激に上昇を続けてきました。こういったものが一服してきていますので、見通しとしましては価格の下落を見通しておるという内容でございます。

また、運送費や保管料のコスト上昇に対処する計画も含めまして、売上および営業利益は、おおむね横ばいの予想をしてございます。

業績予想の前提

	貴金属関連事業	食品関連事業
24年3月期 業績予想	売上高　2,300億円（前期比 ▲165億円） 営業利益　71億円（前期比 ▲49億円）	売上高　1,000億円（前期比 ▲45億円） 営業利益　19億円（前期比 +1億円）
外部環境と数量	自動車を除く需要の減少と過剰在庫の調整に伴い、電子デバイス分野は操業低下（回復は下期以降の見立て） ➡ 貴金属リサイクル取扱量、製商品販売数量の減少	インバウンド需要の拡大などで外部環境は回復 顧客ニーズの多様化に備えた調達力を強化 ➡ 水産品、農産品を中心に販売数量は増加
販売価格	貴金属相場：23年3月期の下期平均並みに想定	23年3月期の上期平均価格程度まで下落を想定
設備投資に伴う償却費	生産インフラの拡充と強化、国内外の拠点拡充と整備	
サステナビリティ経営の推進	脱炭素に向けた取り組み、国際イニシアチブ（CDP、TCFD、TNFD、SBT etc.）への対応、労働環境の整備、人的資本経営の推進	
IT投資	ERP刷新、DXの推進とトレンド技術（RPA、BI etc.）の導入、情報セキュリティ対策	

Copyright ©　MATSUDA SANGYO CO.,LTD.　松田産業株式会社 MATSUDA SANGYO CO., LTD.　24

次に、見通しの前提につきまして、概要をご説明いたします。

貴金属関連事業の外部環境と数量の前提になる概要といたしましては、電子デバイス分野の操業低下の見立てから、貴金属リサイクルの取扱量や製商品の販売数量減少を予想したところがポイントでございます。

宝飾関連、触媒関連などには大きな環境変化は想定していませんので、シェア拡大や新規獲得などでの数量増加をこちらの分野では予想しております。

また、販売価格につきましては、その価格形成において大きく支配いたします貴金属相場につきまして、おおよそ前期の下期、今こちらの平均価格程度相当を想定した内容になっております。およそ金でグラム 8,000 円、銀でグラム 95 円という、金属相場の想定をしております。

食品関連事業の外部環境と数量につきましては、外部環境の回復と当社競争力から、販売数量の増加を予想したものでございます。

また、販売価格につきましては、先ほどもご説明、一部しておりますが、前期の下期に見られました断続的上昇、価格の上昇が一服しまして下落に転じる、そういった見立てを持っております。前期のおよそ上期平均程度に価格が落ち着くという想定での見通しになっております。

設備投資は計画どおりの実行を想定しておりますが、その結果の減価償却費につきましては、2024 年 3 月期につきましては、おおむね横ばいという見通しになります。

また、サステナビリティ経営推進や IT 投資、こういったものが前提に記載の施策などに取り組む計画を持っております。こちら、短期的にはコスト増加が先行し営業利益を引き下げるという内容にはなりますが、中長期を見据えまして、引き続き積極的に実施してまいりたいと考えております。

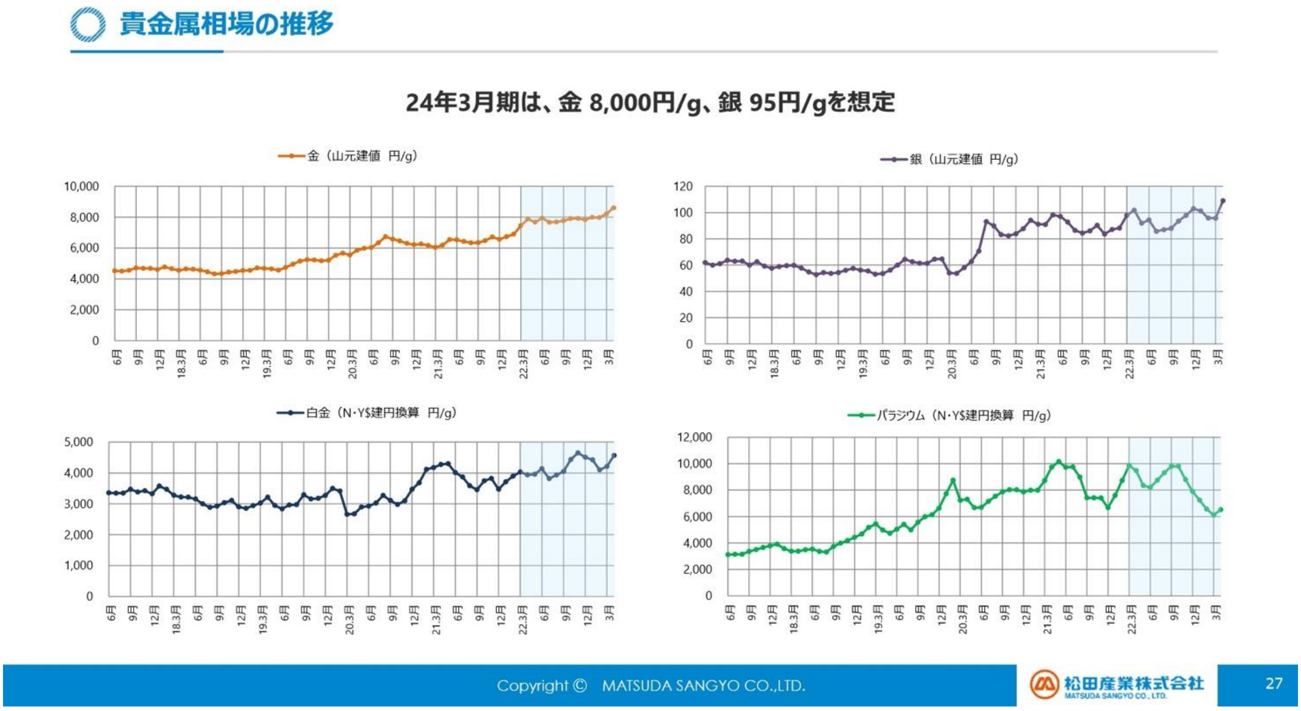
私からのご説明は、以上になります。

業績見通し

（億円）

		23年3月期実績			24年3月期予想			増減			
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期		下期	
売上高	貴金属関連事業	1,269	1,195	2,465	**1,080**	**1,220**	**2,300**	▲189	▲15.0%	+24	+2.0%
	食品関連事業	490	554	1,044	**500**	**500**	**1,000**	+9	+2.0%	▲54	▲9.8%
	合計	1,760	1,750	3,510	**1,580**	**1,720**	**3,300**	▲180	▲10.2%	▲30	▲1.7%
営業利益	貴金属関連事業	66	54	120	**32**	**38**	**71**	▲33	▲51.1%	▲15	▲28.8%
	食品関連事業	13	4	17	**7**	**11**	**19**	▲5	▲42.7%	+6	+162.2%
	合計	79	58	138	**40**	**50**	**90**	▲39	▲49.7%	▲8	▲14.7%

Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD. 松田産業株式会社 MATSUDA SANGYO CO., LTD. 26



参考資料といたしまして、業績見通しの上期・下期別のセグメント別業績見通し、ならびに貴金属相場の推移、こちらを付けておりますので、ご参照いただければと思います。

また、加えて、本日ご説明の資料につきましては改めましてホームページにも掲載させていただきますので、そちらでもご参照いただければと考えております。

以上でございます。

質疑応答

司会 [M]：それでは、これより質疑応答に移らせていただきます。お時間の許す限り、たくさんのご質問をお受けしたいと思いますので、どうぞお気軽に Q&A 機能にてご質問をお寄せください。ぜひ、忌憚のないコメントも頂戴できればと思います。

田中 [A]：それでは、まず、最初のご質問を読み上げさせていただきます。

前期に比べ 24 年 3 月期の業績予想が大きく下回っていますが、減益理由を掘り下げて教えてくださいという内容でございます。

先ほど業績見通しのところでご説明した内容が全てではございますが、今回の業績見通しの中で減益を見通した背景では、貴金属関連事業の外部環境の悪化がその要因になります。

ご存じのとおり、電子デバイス分野は、当社の、貴金属リサイクルや製商品販売の主力の顧客になりますので、この電子デバイス分野の操業動向が当社の業績にはやはり影響することになります。

現在の電子デバイス分野の操業動向はもう既にご承知のところもあるかと思いますが、やはり在庫調整も含めて、その操業状況はかなり悪化している状況にあることを、当社も当然この見通しの中で一番重要点として想定したところでございます。

どの程度の減少という前提に立っているのかまでは、当社の場合も非常に裾野の広い、いろいろなメーカーさんとの取引をさせていただいておりますので、そういった操業動向も個々で非常にばらつきは当然ございますので、一概にどの程度の減少で見通したかをなかなか申し上げづらいところもございます。

しかしながら、これは一般的なといいますか、一つのマクロ的な見方として、電子デバイス分野全体としてピークだっただろうと思われる状況、2022 年 3 月期から 2023 年の 3 月期の前半にかけてが、一つピークだったのかなと当社は見ております。そことの比較からすれば、やはり 2 割から 3 割程度の減少は起こり得るんだろうというところを一つとして、今回の見通しにつながっているとお考えいただきたいと思っております。私からの回答は以上でございます。

松田 [A]：私からも。半導体・電子部品業界、特に半導体の余剰感については、新聞等で連日取り上げられておりますので、それが当社に対しても反映すると思います。ただ、将来的にはこの分野につきましては需要も回復する。これが半年後なのか 1 年後なのかわかりませんけれども、そのよ

うな需要の想定といいましょうか、5G ですとか、EV 関連ですとか、そうしたものも予想されますので、きちっとそのときに備えて、今現在、設備投資を先行して行っている次第です。

田中 [A]：それでは、次の質問に移らせていただきます。

やはり業績予想についてでございますが、営業利益の要因別増減がございましたら教えてくださいという内容でございます。

この要因別増減というところ、今しっかり持っているわけではございませんが、セグメント別に概要でお話しさせていただきますと、やはり営業利益の減益に一番大きく影響してます貴金属関連事業、こちらにつきましては、その数量の減少、数量要因が一つ営業利益の減少の要因につながっております。

加えて、2023 年 3 月期ほどではございませんが、2024 年 3 月期も引き続き積極的な人材の採用も行ってまいりますので、人件費も含めた販管費の増加も一部、営業利益を引き下げる見通しを、引き下げる要因にはなってることになろうかと思います。

また、食品関連事業でございますが、こちらは数量要因とすれば、当然、販売数量を拡販する想定でございますので、数量要因としては、当然、利益増加の方向を予定しております。一方で、23 年 3 月期にも一部ございましたとおり、仕入価格の上昇による利益率の低下、この影響は若干見通しを引き下げるところに、影響としてございます。

また加えて、これは貴金属関連事業とも同様でございますが、こちらも積極的な人材の採用も行ってまいりますので、人件費含めた販管費の増加はまだ続くということがございます。こういったことが営業利益を少し引き下げるようにはなっております。それごとの金額の内訳みたいなことにつきましては、この場ではご回答を省略させていただきたいと思います。

ご回答、以上でございます。

松田 [A]：いずれにしても、中長期に向けた布石は順次打っていきたいと思っております。

田中 [A]：そうしましたら、次のご質問に移らせていただきます。

ROE が 2 桁パーセントと決して低くない水準ですが、PBR が 1 倍割れとなっている現状について、どのように受け止めていらっしゃいますかというお話でございます。

おっしゃるとおり、ROE につきましては 23 年 3 月期では 12%を超える結果でございまして、社内でも認識しております資本コスト等から考えましても、決して当然低くない水準だとは認識しております。

そういった中で、PBR が長年にわたってやはり 1 倍を切っている、割れている現状については、昨今いろいろと東証の要請なども受けて非常に注目されているところではありますが、当然、株式上場会社として PBR1 倍は一つの条件として、常日頃考えていたところでございます。

しかも、その PBR1 倍割れという現状について、どう受け止めて、どう考えるかにつきましては、一つには、先ほど ROE の話も出ましたが、その資本収益性をより高める。これは将来に向けても含め、より高めることによって、資本コストとの間のギャップといったものを広げていくことで、成長性みたいなものをきちっとご理解していただく。

加えて、サステナビリティ関連といいましょうか、ESG への取組みですとか、コーポレートガバナンスの適切な対応で、市場への信頼を高めていく。この二つがまずあって、加えて、当然ながら、やはり株主還元の充実についても、引き続き検討が必要だろうとは考えているところでございます。

こういったものについて、具体的に今後いろいろ検討していく機会をつくっていくことになろうかと思います。そういったもので具体的な計画みたいなものができた暁には、当然きちっとそういったものを公表させていただきたいと考えている次第でございます。

私からは、回答、以上でございます。

松田 [A]：いずれにしても、利益性の向上と株主還元、それから IR の強化は進めていかなければならないなとは思っています。

田中 [A]：次の質問に移らせていただきます。

初めて今回ご参加いただいた方からのご質問でございますが、中期経営計画、中計の最終年度、2025 年度の売上が 3,000 億円という減収の計画、その要因をということです。

こちらにつきましては、中期経営計画、昨年の 5 月に公表させていただいて、現在のところと比べますと、やっぱり貴金属相場に対しての想定に若干ギャップが出ております。

この貴金属相場については、かなりボラティリティ、変動性があるものですから、基本的には中期計画の中で価格前提を基本的にはあまり見直さないでやってきております。そういったことが大きく一つは影響して、減収の計画になっております。

これはしっかりと計算したことではございませんが、足元といいましょうか、現状の相場で仮定の計算をした場合には、基本的には増収という計画になるんだろうとは思っております。

私からは、回答、以上でございます。

もう少しお時間ございますので、ご質問に答えさせていただきたいと思います。

24 年 3 月期の業績悪化予想を踏まえて、今後の投資に対する影響があるかと。なければ、それはどうしてかというご質問でございます。

先ほども私の説明の中でも申しましたとおり、今回の中期計画で掲げています投資計画、4 カ年で 300 億円という内容につきましては、基本的には、この中期経営計画期間以降といいましょうか、少し中長期を見据えた戦略的な投資が多く含まれております。

したがって、この 24 年 3 月期の業績悪化予想、われわれ、これは一過的だと見ているんですが、この予想を踏まえて、その計画を今、何か変更することを考えていないということでございます。

加えて、投資の中には、当然、優先的に進めていかなければいけないインフラ的な部分ですとか、あるいは老朽化更新も含まれておりますので、こういったことも含めて、来年の 24 年 3 月期の業績予想の減益にかかわらず、ここは計画どおりしっかりと前に進めていきたいと考えている次第でございます。

回答、以上でございます。

松田 [A]：投資につきましては、かなり、数年、やっぱり 2 年、3 年、4 年というレンジで行っていかなければならない。固定資産、建物ですとか設備ですとか、そうしたものもありますので、今の状況下において、それを大きく変更していくことはまずないと思っております。

将来に向けて、生産性もしくは GHG ガス排出削減といいましょうか、そうしたものの対応も含めまして、対応するための投資だと思ってますし、それによって生産性を確実に上昇させていきたい。また、収益性、新規の商圏に対する対応を行っていきたいと思っております。

田中 [A]：次の質問に移らせていただきます。

23 年 3 月期の 4 クォーターで食品関連事業が赤字になった理由について教えてくださいということでございます。

これは先ほどの説明の中にも少しございましたが、仕入価格の上昇の影響をやはり一番大きく受けたのがこの 4 クォーターというのが、お答えになります。

やはり、これは当社に関わらず、食品業界は期末の 4 クォーターが一つ商品の入替え時期と、こういったことも一部、影響してくるわけでございまして、これは 23 年 3 月期に関わらずその前の期も含め、食品関連事業は 4 クォーターで比較的業績が荒れるといいましょうか、少し悪化の方向に働く傾向ではございました。

加えて、23 年 3 月期の 4 クォーターにつきましては、仕入価格の上昇、それに対しての価格転嫁のギャップ、この辺が一番、結果として業績の悪化につながったと考えております。4 クォーターではこういう赤字という結果になっておりますが、当然ながら、その次、今期につきましては、この辺をきっちりと解消していきたいと考えているところでございます。

回答、以上でございます。

松田 [A]：一般的に食品関連事業については例年なんですけれども、第 3 クォーターの年末終戦はクリスマスですかとか、正月を踏まえた、比較的、食品原材料が動きやすい時期になる半面、第 4 クォーターについてはその反動がきやすい傾向にあります。

それに加えて、一部の商品の下落等があったことで、その辺が重なったことで、当社としては特に大きな問題なく、次年度につなげた食品関連事業の継続を行っている状況にあります。

田中 [A]：そうしましたら、時間がわずかになっていますので、もう 1 問ご質問にお答えさせていただきます。

最後のご質問になりますが、23 年 3 月期の業績、実績で、営業利益が予想を上回った理由、見通しを上回った理由について教えてくださいという内容のご質問でございます。

確かに貴金属関連事業につきましては、実際の数量面、貴金属リサイクルの取扱量等の数量面につきましては、電子デバイス分野において下降といいましょうか、減少傾向になってきている時期ではございます。

一方で、特に上期、23 年 3 月期の上期においては、当初想定から比べて、まだ電子デバイス分野からのリサイクルの発生量とか、あるいは製商品販売の販売動向につきましては、上期まではかなり順調にまだ推移しました。下期におきましても、当社の場合は実際の電子デバイス分野の操業動向のリアルタイムからおおよそ 1 クォーター以上、当社の業績への影響が少し後倒しになってくることもございます。

こういったところも含めて、当初の想定、見通しに対して、そういった数量面の減少予想に対して、予想から業績反映が少し遅延したことが、今回、見通しに対してかなり業績を上回った一つの要因になろうかと思っております。

私からの回答、以上でございます。

司会 [M]：皆様、ご質問をお寄せいただき、ありがとうございました。これをもちまして、質疑応答を終了させていただきます。

それでは、お時間になりましたので、松田産業株式会社、2023 年 3 月期決算説明会を終了させていただきます。本日は、ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

［了］

———————

脚注

1.　音声が不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。